

# 高齢者支援施設の構想を示せ

町長 既存施設の機能充実を図る

斉藤 好信 議員



## 高齢者の将来の居場所と施設の人材確保

**質問** 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の住民からの声に、将来の居住場所等の不安がある。高齢者向きの集合住宅等の建設構想はあるのか。

**町長** 高齢者向きの集合住宅という形に限定せず、様々な入居者に対応できるように整備し、高齢者が安全安心して快適に暮らすことができるよう配慮し整備を進めているところであり、現段階では新たに高齢者向け集合住宅を建設する構想はない。

高齢化の状況や高齢者向けの集合住宅等のニーズ及びその整備に係る国等の支援制度を検証しながら検討する。

**再質問** 町の施設は常に満室であり、多くの待機者が

いる状態で、住み慣れた地域に居たくても町外に移らざるを得ない実態がある。介護施設の企業誘致の考えはあるか。

**町長** 現在、全ての施設でほぼ満室状態となっており、あけぼの園の待機者は、9月現在で48名である。

施設整備等の調査を実施し、介護施設の企業誘致も検討したが、条件や人材確保、介護保険料への影響等の観点から新たな介護施設を誘致することは、現時点では難しい。高齢者向け施設の企業誘致の可能性を探りつつ、既存施設を最大限、効率的・効果的に活用して、将来に対する不安が軽減されるよう施策を進めていきたい。

**再質問** 町の施設の人材確保に向け、さらなる労働条件、処遇改善に取り組む考えはあるか。

**町長** 町の人口が減少傾向の中で高齢化率は上昇傾向にあり、福祉・医療施設の需要はますます高まってくる。人材を確保するため、労働条件や処遇をさらに改善していく方策の必要があると認識している。

奨学資金貸付制度や介護職員処遇改善加算の創設、各種手当の拡充など近隣市町村の取り組みも参考に必要調査・検討を進めたい。

**再質問** 短時間の研修時間で資格が取れる生活支援従事者研修が4月から創設された。生活支援をするヘルパーを導入することにより職員が利用者向き合う時間が増え、労働の負担軽減、

環境改善も図られると思うが是非参考にして実施してほしい。

**町長** 日本全体が介護や医療に従事されている方が非常に不足している。町としても様々な制度を駆使し学習をしながら下川町に相応しい取り組みを少しずつ進めたい。



共生型住まいの場「ぬく森」